

日立と米国 X LABS 社、北米 AI データセンター向けに GW 級の電力をサービス供給する 「エネルギーパーク」開発で協業

発電・蓄電設備やエネルギーマネジメントシステムを備えた電力供給拠点を「Energy-as-a-Service」として提供することで、需要家の電力調達や初期投資の課題を解消し、AI データセンター建設の早期実現に貢献

株式会社日立製作所(以下、日立)と、米国におけるエネルギーインフラ分野の投資や特別目的事業体(SPV)^{*1}の運営・管理に知見のある X LABS LLC(エックスラプス、以下、X LABS)は、北米の AI データセンター向けに、GW 級の電力を供給するインフラ施設「エネルギーパーク」を開発するため、戦略的パートナーシップを締結しました。

エネルギーパークは、電力需要家の施設内や近接地に、発電・蓄電設備、送配電システム、エネルギーマネジメントシステムを配備した電力供給拠点です。需要家向けの主電力として地域の電力系統とも協調するよう設計・構築することで、地域システムの強化を待つことなく大規模な電力調達を可能とし、産業施設の早期構築に貢献します。

両社は、エネルギーパークの設計・開発・運用・電力供給までを、SPV を通じて Energy-as-a-Service(EaaS)として提供することで、データセンター事業者が大規模な初期投資や複雑なエネルギー運用を自社で担うことなく、事業拡大に必要な電力を安定的に確保できる環境の実現をめざします。今後、X LABS が運営する SPV が資金調達や建設用地の選定・開発、プロジェクト管理を進め、第一弾のエネルギーパークを 2030 年代前半に完成させる計画です。

両社は、日立の GW 級の送配電や系統安定化技術と、X LABS のテクノロジーに裏付けされた投資・運営ノウハウを組み合わせることで、データセンター事業者の電力調達におけるボトルネックを解消し、持続可能なデータセンター運用と AI の社会実装による課題解決に貢献していきます。

^{*1} Special Purpose Vehicle: 特定の事業目的のために設立される組織。本開発においては、エネルギーパークの建設や資産所有、運営の主体となり、需要家への SaaS の提供元となる。

背景

昨今、AI やクラウドサービスの拡大により、データセンター建設計画が相次いでいます。一方で米国では、電力インフラの老朽化に伴い、発電・送配電網の更新・強化が需要に追いついておらず、データセンター事業者にとっては、いかにして安定的に電力を調達できるかが事業拡大のボトルネックとなっています。

こうした中、特に大規模な電力を必要とするハイパースケーラー向けの大型の AI データセンターでは、系統電力への依存を抑え、敷地内や近接地に複数の発電源(太陽光、ガス、風力など)や蓄電設備、エネルギーマネジメントシステムを組み合わせ、オンサイトで主力電源を確保するエネルギーパークへの関心が高まっています。しかし、一般的な kW・MW 級のマイクログリッドではなく、電圧や周波数の乱れが許されない GW 級の大規模なエネルギーインフラの設計・建設・運用には、巨額の設備投資だけでなく専門技術が不可欠であり、データセンター事業者にとって大きな負担となります。

そこで、本協業で開発するエネルギーパークは、設備開発・運用、電力供給までを一体でサービス提供する EaaS モデルを採用します。EaaS は、需要家が電力設備や複雑なエネルギー運用を自社で担うことなく、迅速かつ安定的に電力を利用できる新たなモデルとして期待されています。

協業の内容／各社の役割

日立は、データセンターや工場の運営を通じた需要家視点での電力調達・運用課題への知見を有するだけでなく、日立エナジーの高電圧の送配電網の設計・運用や電力品質の確保と系統安定化における高い技術力と豊富な実績を有します。戦略 SIB ビジネスユニット主導のもと、グループ横断の知見を活用し One Hitachi で本協業に取り組むことで、送配電機器や系統連系システム、蓄電池システム(BESS)を備えたエネルギー・マネジメントシステム(EMS)などのソリューションの提供を通じて、エネルギーパークの安定運用と効率的な電力制御を支えます。また、将来的には、AI で社会インフラを革新する次世代ソリューション群「HMAX by Hitachi」の 1 つである「HMAX Energy」^{*2}の導入を通じて、エネルギー運用のさらなる高度化・効率化をめざします。

X LABS は、グローバル大手資産運用会社の元 CEO とグローバルテクノロジーグループの元 CTO が共同設立した投資運営・開発会社です。最先端のエネルギーインフラ分野の高度な技術や事業運営・開発の知見を生かして、SPV の設立・運営、パートナーリングを通じた建設用地の確保や発電設備の調達を行い、事業を推進します。X LABS は自社が運営・管理する SPV を通じてエネルギーパークを開発・運用し、需要家に対して電力を as a service で提供します。

*2 2026 年 3 月 26 日 ニュースリリース: [日立、エネルギーインフラ向け次世代型 AI サービス・ソリューション群「HMAX Energy」を提供開始](#)

日立製作所 執行役専務 戦略 SIB ビジネスユニット CEO 谷口 潤のコメント

「AI 普及によるデータセンター建設ラッシュにより、安定かつ信頼性の高い電力供給の重要性は、これまでになく高まっています。日立は社会インフラ領域で長年培ってきた知見を基盤に、IT・OT・プロダクトを有する強みを生かして、送配電システムからエネルギー・マネジメントに至るまで、AI データセンター向けに最適化されたエネルギー・ソリューションを提供していきます。X LABS が運営・管理する SPV の枠組みを活用した EaaS 事業への参画を通じて、日立グループ横断の知見を結集し、次世代のエネルギーインフラを支える環境構築をめざしてまいります。」

X LABS 共同創業者兼 CEO Karan Trehan(カラン・トレハン)のコメント

「日立との協業により、当社チームが培ってきたアセットマネジメントおよびプロジェクトマネジメントの経験を、エネルギーパークに生かせることを光栄に思います。また、連邦・州・地方政府(特に米国)レベルの各種インセンティブに支えられながら、エネルギーインフラ投資家にとって魅力的な投資リターンの創出をめざします。」

商標注記

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

日立製作所について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、社会インフラをデジタルで革新し続けるグローバルリーダーをめざし、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エナジー、モビリティ、コネクティブインダストリーズの 4 セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略 SIB ビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumada をコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2025 年度(2026 年 3 月期)売上収益は 10 兆 5,867 億円、2026 年 3 月末時点で連結子会社は 606 社、全世界で約 29 万人の従業員を擁しています。詳しくは、www.hitachi.com/ja-jp/をご覧ください。

X LABS について

X LABS は、AI データセンターおよび産業分野の電力需要家に向けて、ビハインド・ザ・メーター型(自家消費型)のマイクログリッドを活用した専用電力インフラの構築に注力する、米国拠点の投資運営および開発会社です。同社は、プロジェクトごとの投資スキームを通じて機関投資家の資金を活用し、戦略的パートナーと連携のもとエネルギーハブの導入と継続的な運営を推進しています。詳しくは、<http://www.xlabsenergy.com>をご覧ください。

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
